

# 1st よく見て

## 子どものサインを受け止めていますか？

先生、私のこと気がついて

- 例えば、学習では**
- 聞き間違いや聞きもらしがある。
  - 黒板の文字が正しく書き写せない。
  - 何度となく練習しても漢字が正しく書けない。
  - 文字を読むのに苦労し、音読がスムーズにできない。
  - ひらがなは書けるのに、漢字はいつも間違える。
  - 筆算で位をそろえて計算することができない。
  - 授業中に発表しようとするが、質問等に即した発表内容ではない。
  - 個別での会話は理解できるが、授業などの集団場面では難しい。
  - 学習意欲がなく、ただ座っているだけである。
  - 極端に不器用であり、ハサミ等の道具がうまく使えない。

- 例えば、行動では**
- じっとしていることが苦手である。
  - 授業中、立ち歩く。
  - さっきやっていたことをすぐ忘れる。
  - すぐに頭にくる。いらいらして乱暴する。
  - 友だちや教師がしていることをさえぎったり、邪魔したりする。
  - 机の中が乱雑であり、忘れ物等が多い。

- 例えば、対人関係では**
- 友だちの会話に入れない。
  - 相手が傷つくことを平気で言う。
  - 友だちの輪の中に入って一緒に遊べない。
  - 活動の切り替えができていない。
  - 自己中心的で相手の気持ちを考えない言動が多い。
  - 自分なりの独特な日課や手順があり、変更や変化に混乱する。
  - 友だちがしていることには興味を示さず、マイペースであり、一人で過ごしていることが多い。
  - 興味のある特定のことにについてはよく知っているが、一方的にそのことばかり話し、会話が成立しにくい。

**このような子どもたちの背景には、何があるのでしょうか。**  
ほんの少しのつまずきで困っている子ども、教師が感じている以上に深刻に悩んでいる子どもなど様々ですが、自分の力だけでは解決できない問題がたくさんあります。子どもたちはその悩みを解決するために、様々なサインを出して支援を待っています。



# 2nd 考えて

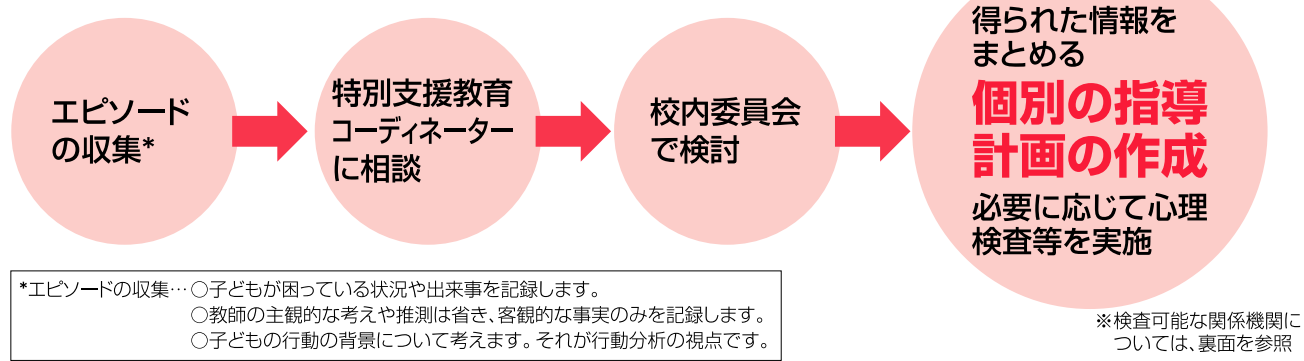
## 子どもを取り巻く学習の環境は？

- 学びやすい教室 すっきり**
- 床にもは落ちていませんか？片付ける場所が決まっていますか？
  - 授業に関係ないものを常時黒板にはっていませんか？
  - 教室前方の掲示や物品は必要最小限になっていますか？
  - 子どもの机や椅子の高さは適切ですか？がたつき等はありませんか？
  - 机のフックに色々なものがぶら下がっていませんか？
- わかる授業 はっきり**
- わかりやすい説明や板書を心がけていますか？
  - 子どもの発表場面（身体活動を含む）を保障した授業を意識していますか？
  - 授業のはじめに「本時の目標」と「学習の流れ」を子どもに示していますか？
  - 子どもがどの程度理解しているかを把握していますか？
  - タイムリーな評価をしていますか？

- 安心できる集団 にっこり**
- クラスの中に一人ひとりが安心していられる居場所がありますか？
  - 学級集団としてのルールや目標はありますか？
  - 子どもが互いに注意し合える関係が築かれていますか？
  - 座席やグループを決めるときに人間関係への配慮はありますか？
  - 失敗を恐れず誰もが発言でき活動しやすい状態にありますか？

**環境を整えることは、すべての子どもの学びやすさにつながります。**  
教師が何を「教えたか」ではなく、子どもが何を「学んだか」の視点で振り返ることが大切です。

特別な教育的支援が必要な子どもには「**個別の指導計画**」を作りましょう。

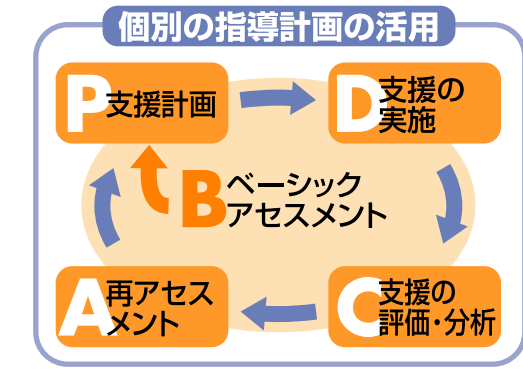


**行動分析※の視点で子どもの行動を整理していきましょう。**

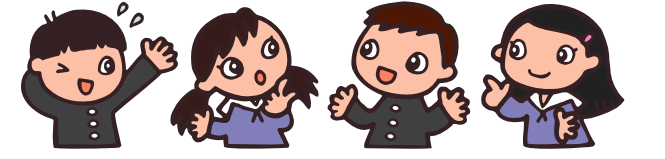
# 3rd 行動する

## 個別の指導計画を活用しよう！

**B-PDCA※サイクルでは計画的に複数で見直すことで実践に活かせます。**



目標は、評価の基準がはっきりするように立てます。指導内容や手立てについては「だれが」「何をするか」の役割をはっきりとおきます。定期的に評価を行い、効果があつた手立ては継続し、効果がなかつた支援は見直し、次の手立てを考えます。



### 1 学習場面での支援

- \*集中できる時間を考慮し、メリハリのある授業を工夫する。
- \*子どもの実態に応じて、ノートのマス目や印刷文字の大きさを工夫する。
- \*授業の流れを明示し、今どこを学習しているのかわかるように工夫する。
- \*授業の始まり、終わりをわかりやすくする。
- \*黒板の内容をノートに書き写す時間を確保する。
- \*板書では、重要な所がわかるよう「→」（やじるしのカード）等を使う。
- \*教え合い、尋ね合いの時間を設ける。
- \*学習のルールを徹底する。
- \*困った時の合図を決めておく。
- \*指示はできるだけ具体的なものにする。
- \*視覚的な支援（写真・絵・図・グラフ等）を取り入れる。
- \*全体に指示を出した後、個別に声かけを行い、理解しているかを確認する。
- \*自分で選択できる活動を取り入れる。
- \*小さな成果を認め、成功体験を積み重ねることができるよう設定する。

### 2 生活場面での支援

- \*子どもたち一人ひとりの学びの違いを把握する。
- \*窓側、廊下側などを配慮し、その子に合った席の配置を考える。
- \*一日の流れや時間割の変更が見てわかるようにする。
- \*机、ロッカーの整理を定期的に行う。
- \*片づける場所を決めておく。
- \*教室の掲示物は、必要なものだけにし、わかりやすく表示する。
- \*教室にある教師用机の上を整理しておく。
- \*不必要な物が目に入らないようにする。
- \*照明の強さやカーテンの色に配慮する。
- \*学級で一人一役の仕事を作る。
- \*望ましい行動をしたときは、大いにほめ、シール等で評価する。
- \*「～してはだめ。」と注意するのではなく、「○○のようにしましょう。」と肯定的に伝える。

**支援の基本は構造化※です。**

### 家庭との連携では

- \*ささいなことでも、できたことをほめ、伝えるようにしましょう。
- \*宿題はその子に合った出し方を工夫しましょう。
- \*保護者の思いに共感し、支援の方法については具体的に伝えましょう。

3 つなぐ

気づく 支える つなぐ